

- 問1 世界の地熱資源量を国別に調査した統計において、約3000万kWのアメリカ合衆国に次いで世界2位となる約2779万kWの資源量を持ち、環太平洋造山帯に位置している東南アジアの国はどこですか。 (2021年 奈良公立入試 類似)
1. インドネシア 2. スウェーデン 3. モンゴル 4. オーストラリア
- 問2 2020年の統計において、生産量の割合が1位のアメリカ合衆国 (15.1%)、2位のロシア (13.7%)、3位のサウジアラビア (12.3%) で世界全体の約4割を占めている、現代の生活や工業製品の原料、主要なエネルギー源として欠かせない鉱産資源は何ですか。 (2022年 千葉県公立入試 類似)
1. 原油 2. 石炭 3. 鉄鉱石 4. 天然ガス
- 問3 モンゴル周辺の地域において、人々が伝統的に「ゲル」と呼ばれる移動式住居を用いながら「遊牧」を行ってきた理由として、現地の自然環境と生活の因果関係を説明したものととして最も適切なものはどれですか。 (2022年 埼玉県公立入試 類似)
1. 年間を通じて乾燥しており、家畜が食べる草や水を使い果たす前の次の場所へ移動し続ける必要があるため。
2. 季節風 (モンスーン) の影響で夏に激しい洪水が起こるため、標高の高い場所へ避難しやすい住居が必要だったため。
3. 森林を焼き払った後の灰を肥料として利用する農法において、数年ごとに耕作地を変えなければならないため。
4. 地中海性気候のように夏に乾燥するため、涼しい山岳地帯へ家畜を移動させる「移牧」を行う必要があるため。
- 問4 世界各国の国内総生産 (GDP) と輸出額の関係を示した資料において、中国の位置付けを説明したものととして正しいものはどれですか。 (2022年 鳥取公立入試 類似)
1. 国内総生産はアメリカ合衆国に次ぐ規模であり、輸出額も世界トップクラスである。
2. 国内総生産は日本やドイツを下回っているが、輸出額のみ突出して世界第1位である。
3. 輸出額はASEAN諸国の合計よりも少ないが、広大な国土により国内総生産は世界最大である。
4. 国内総生産は世界第2位であるが、輸出額に関しては新興国の中位レベルにとどまっている。
- 問5 東アジアの諸国の中で、2020年代の統計においてインターネット利用率が約97%ときわめて高く、主な輸出商品に機械類や自動車が含まれ、かつ輸出入のいずれにおいても中国が最大の貿易相手国となっている国はどこか、名称を答えなさい。 (2024年 山梨公立入試 類似)
1. 大韓民国 2. インド 3. オーストラリア 4. メキシコ
- 問6 アジアで見られる季節風 (モンスーン) の仕組みや影響について述べた文として、最も適切なものはどれですか。 (2023年 熊本県公立入試 類似)
1. 夏は海から陸へ、冬は陸から海へと、季節によって吹く方向が変化する。
2. 大西洋から一年中一定の方向に吹き続けるため、季節による降水量の変化が少ない。
3. チベット高原から吹き下ろす乾燥した風が、東南アジアに夏の大雨を降らせる。
4. 太平洋の寒流の影響を強く受けた風が、アジア全域を一年中乾燥させる。
- 問7 中国南部の沿海部において、海外への窓口として経済特区に指定された地域や都市の組み合わせとして正しいものはどれか。 (2026年 鹿児島公立入試 類似)
1. シェンチエン (深セン)、チューハイ (珠海)、スフトウ (汕頭)、アモイ (廈門)、ハイナン (海南) 省
2. ベキン (北京)、シャンハイ (上海)、テンシン (天津)、チョンチン (重慶)
3. チベット自治区、シンチャンウイグル自治区、ナイモンゴル (内モンゴル) 自治区
4. ホンコン (香港)、マカオ (門) 台湾
- 問8 2017年の地熱発電設備容量に関する統計において、1位のアメリカ、2位のフィリピンに次いで世界第3位 (186万kW) に位置し、トルコやニュージーランドを上回る設備容量を持つ東南アジアの国はどこですか。 (2021年 熊本県公立入試 類似)
1. インドネシア 2. イギリス 3. モンゴル 4. オーストラリア
- 問9 1980年代から2010年代にかけて、ベトナムやインドネシア、マレーシアなどの東南アジア諸国で見られた輸出品目の構成変化に関する説明として、最も適切なものはどれですか。かつての主要な輸出品と、近年の動向を踏まえて答えなさい。 (2023年 佐賀公立入試 類似)
1. 外国企業の誘致などによって、衣類や電気機器などの工業製品の輸出割合が増大し、工業国へと移行している。
2. 自国内の消費が増えたため、農産物や鉱産資源の輸出を制限し、重化学工業製品の輸入を大幅に増やした。
3. 伝統的なモノカルチャー経済を維持するため、農産物や鉱産資源の輸出割合を1980年当時よりもさらに高めた。
4. 工業化を断念し、観光業などのサービス業を経済の中心に据えたため、工業製品の輸出割合は1980年当時よりも低下した。
- 問10 中国におけるエネルギー資源の消費統計によると、ある資源の消費量が2010年の約3,200百万トンから、2014年には約4,100百万トンへと、わずか数年で急速に増加しています。この資源は何ですか。 (2018年 長崎県公立入試 類似)
1. 石炭 2. 石油 3. 天然ガス 4. ウラン
- 問11 南アジアに位置するある国について、2000年から2019年にかけての一人あたりの国民総所得 (GNI) が著しく上昇している統計資料があります。また、2019年時点の主要な輸出品目として、石油製品や機械類とともにダイヤモンドが上位を占めているこの国はどこですか。 (2024年 島根公立入試 類似)
1. インド 2. 南アフリカ共和国 3. チリ 4. イギリス
- 問12 世界主要港湾の統計において、朝鮮半島の南端に位置し、コンテナ取扱量が世界トップクラス (2018年時点で世界6位) である港の名前を答えなさい。 (2022年 東京都公立入試 類似)
1. 釜山 2. シンガポール 3. 上海 4. ドバイ
- 問13 東南アジアの農業と食文化の関係について述べた次の文のうち、ベトナムの状況を説明したものととして最も適切なものはどれですか。 (2021年 新潟県公立入試 類似)
1. 大規模な河川のデルタ地帯で生産される米を、粉状の麺にするなど加工して食べる文化が根付いている。
2. 乾燥した気候に適した小麦を主原料とし、パンやパスタを中心とした食文化が発達している。
3. 冷涼な高原地帯でトウモロコシを大規模に栽培し、これを主食の粉として利用する文化が中心である。
4. 熱帯の痩せた土地でも育つキャッサバを、輸食用としてではなく主に国内の主食として消費している。
- 問14 中国における1980年から2050年までの年齢別人口構成の推移をまとめた統計において、将来的にその割合が低下し、製造業などにおける労働力不足を招くと懸念されている「15歳から64歳」の人口区分を何と呼びますか。 (2023年 熊本県公立入試 類似)
1. 生産年齢人口 2. 年少人口 3. 老年人口 4. 非労働力人口

答え合わせ・解説

問1	答え 1 インドネシア	環太平洋造山帯に位置する国々は火山活動が活発であり、地下にあるマグマの熱を利用した地熱発電のポテンシャルが非常に高いという特徴があります。この統計において、1位のアメリカ、3位の日本に挟まれる形で世界屈指の資源量を誇っているのは、多数の火山を有する島国であるインドネシアです。
問2	答え 1 原油	現代の高度な産業社会を支える不可欠なエネルギー源であり、プラスチックなどの石油化学製品の原料としても広く利用されています。2020年の統計では、シェールオイルの増産によりアメリカ合衆国が生産量1位となっており、次いでロシア、サウジアラビアといった国々が上位に名を連ねているのが特徴です。
問3	答え 1 年間を通じて乾燥しており、家畜が食べる草や水を使い果たす前に次の場所へ移動し続ける必要があるため。	内陸アジアは海から遠く湿った空気が届きにくいと、非常に乾燥しています。一度家畜が草を食べてしまうと再生に時間がかかるため、同じ場所に留まらず、広大な範囲を家畜とともに移動する「遊牧」という合理的な生活スタイルが確立されました。ゲルは、この頻繁な移動という生活の必要性から生まれた、持ち運び可能な住居です。選択肢にある「森林を焼く（焼畑）」や「季節風による洪水」は、それぞれ熱帯や温帯モンスーン気候の特徴であり、乾燥した内陸部には当てはまりません。
問4	答え 1 国内総生産はアメリカ合衆国に次ぐ規模であり、輸出額も世界トップクラスである。	2018年時点の経済統計を見ると、中国の国内総生産は日本を大きく上回り、世界第1位のアメリカ合衆国に次ぐ規模に達しています。また、工業化の進展により輸出額も非常に大きく、統計上でも巨大な経済規模と高い輸出能力を兼ね備えた経済大国としてプロットされます。かつてのアジアにおける日本の経済的優位性と比較されることも多い重要な知識です。
問5	答え 1 大韓民国	大韓民国は1970年代以降、急速な工業化を遂げてNIEs（新興工業経済地域）の一角として発展しました。現在は情報通信技術（ICT）の普及が非常に進んでおり、世界トップクラスのインターネット利用率を誇ります。産業構造としては、半導体などの電子機器を含む機械類や自動車为主要な輸出商品となっており、地理的に近く経済的結びつきが強い中国が最大の貿易相手国となっています。
問6	答え 1 夏は海から陸へ、冬は陸から海へと、季節によって吹く方向が変化する	季節風は、大陸と海洋の温まりやすさ（比熱）の違いによって生じます。夏は大陸の温度が海よりも早く上がるため、気圧が低くなった大陸側へ向かって、インド洋などの海側から湿った空気が流れ込みます。これにより、アジアの多くの地域で夏に降水量が多くなる傾向があります。
問7	答え 1 シェンチェン（深セン）、チューハイ（珠海）、スフトウ（汕頭）、アモイ（廈門）、ハイナン（海南）省	経済特区は、地理的に東南アジアに近く、海外との交流や海上輸送に便利な中国南部の沿海部に集中して設置されました。具体的にはシェンチェン、チューハイ、スフトウ、アモイの4都市に、後に省全体が指定されたハイナン島を加えた地域が、初期の経済成長を牽引する拠点となりました。
問8	答え 1 インドネシア	環太平洋造山帯に位置する国々では、火山の熱を利用したエネルギー開発が盛んです。インドネシアは多くの活火山を持つため、地下の熱水や蒸気を取り出す地熱発電に適しており、世界有数の設備容量を誇っています。統計データにおいても、アメリカやフィリピンと並んで上位にランクインする常連国です。
問9	答え 1 外国企業の誘致などによって、衣類や電気機器などの工業製品の輸出割合が増大し、工業国へと移行している。	東南アジア諸国では、1980年時点では天然ゴムや米などの農産物、石油や天然ガスといった鉱産資源の輸出が中心のモノカルチャー経済に近い構造でした。しかし、外資系企業の積極的な誘致や経済特区の整備、ASEAN（東南アジア諸国連合）内での自由貿易の進展などにより、2015年頃には衣類、電子部品、自動車などの工業製品の輸出割合が飛躍的に高まり、工業化が大きく進展しました。
問10	答え 1 0 石炭	中国は世界最大の石炭産出国であり、同時に消費国でもあります。2010年代前半の中国は「世界の工場」として目覚ましい経済発展を遂げており、その膨大なエネルギー需要を賄うために、国内で安価に調達できる石炭が主要なエネルギー源として利用されました。このため、統計上でも短期間に消費量が著しく増加していることが読み取れます。
問1	答え 1 1 インド	1990年代以降の経済自由化をきっかけに、南アジアでは急速な経済成長を遂げる国が現れました。IT産業の発展が有名ですが、貿易面では石油製品や機械類、さらには輸入した原石を国内で加工して再輸出するダイヤモンドなどの品目が上位を占めており、国民総所得の向上を支えています。
問1	答え 1 2 釜山	朝鮮半島の南端に位置する釜山は、対馬海峡に面した好条件の港湾都市です。461百万トンを超える膨大なコンテナ取扱量を誇り、アジアと世界を結ぶ物流の要所となっています。シンガポールやドバイも有力な港湾ですが、朝鮮半島という地理条件から釜山が正解となります。
問1	答え 1 3 大規模な河川のデルタ地帯で生産される米を、粉状の麺にするなど加工して食べる文化が根付いている。	ベトナムでは、メコン川などの大河が形成した広大なデルタ（三角州）で稲作が行われてきました。豊富に収穫される米を麺（フォー）や生春巻きの皮（ライスペーパー）に加工して利用するのは、米を基盤としたこの地域特有の食文化です。他の選択肢にある小麦は温帯の乾燥地、トウモロコシやキャッサバは東南アジアにおいても栽培されますが、ベトナムを代表する伝統的な主食の形態とは異なります。
問1	答え 1 4 生産年齢人口	15歳から64歳までの層は「生産年齢人口」と呼ばれ、社会の経済活動を支える中心的な存在です。中国では長年続いた一人っ子政策などの影響で少子高齢化が進んでおり、この層の人口減少が将来の経済成長を抑制する要因として問題視されています。